

2020年2月18日 ひばりクリニック研修の感想

この度の研修では大変お世話になりました。わずか1日の研修でしたが1週間以上いたかのような内容で大変勉強になりました。

学べたことの一つとして、まず地域のニーズを感知して満たすような施策と経営の両立です。梶原診療所の病棟が経営が原因で閉鎖となることもあり、先生のお話が大変参考になりました。地域にとってのニーズがあるのにも関わらず、継続ができないことはとても悲しいことであると思っていました。医療者も家族があり、皆さんが生活をかけて働いている中で地域にとってのニーズと経営を両立されていることが素晴らしいことであると思いました。

お時間があればもう少し障害福祉や市とのやりとり、NPO法人、トウースフェアリー、寄付金・助成金のためにされたこともお聞きしたかったです。先生が市の地域の関係者と笑顔で接し、できることを前向きに考えていくようにされたことでできた、人と人との繋がりも貢献していたように感じました。医師は毎日の業務に追われ、医学部でも経営や地域社会、法律や制度の勉強をする機会も少なく経営面の知識が不足しているように感じます。その中で一人で全てを行うのではなく、地域社会、制度とリンクして自身の実現したいことを行なっていく大切さを学ぶことができました。

次にスタッフの皆さんがやりがいと誇りを持って、楽しそうに働いていることも印象的でした。小児の訪問診療の現場でも患者・家族以上に医師が楽しそうに働いている姿はとても印象的でした。最近の自身の訪問診療は電子カルテを見て処方や方針を考えることばかりになっていて患者や家族と目を合わせてゆっくりと時間をとって話すことができていなかったのがハッとさせられました。障害はあってもイコール不幸ではないと聞くこともよくありますが、先生のおられるようにマイノリティのために言われるだけであって地域の中にある「個性」と考えることができました。研修後に梶原診療所に帰り、担当している38歳の脳性麻痺の患者の訪問に行きましたが普段の生活のことを家族とゆっくり話すことができました。そもそも患者がどのような生活を送っているかも知らず、診療を行っていたのだなと自身を振りかえるきっかけにもなりました。

上記2点が印象に残った点であり、自身の感想とさせていただきます。

この度は研修を引き受けていただきまして誠にありがとうございました。

昼食を共にしたり、最後まで見送りまでしていただき、本当に嬉しかったです。

今後ともよろしく願いいたします。

角 允博 拝